やまなし城・居館めぐりのススメ

北杜・韮崎 甲斐・甲府編

文化庁令和3年度「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」

凡例

= 城跡、烽火台跡、砦跡　= 館跡、屋敷跡　= 寺院　= 神社　= 遺跡、石碑、墓など
= オススメルート　= 健脚ルート　= 川・水路　= 電車　= バス停

お城用語解説

- **城（しろ）** ▶防御施設が施された建物や設備。平地に造られた平城、丘などの高まりに造られた平山城、山に造られた山城がある。城持ちになっていっちょ前!
- **館（やかた）** ▶居館ともいう。武将や領主が日常生活をする場所。周囲に堀や堤などの防御施設をもつものもある。国主レベルの守護館から村役人クラスの屋敷まであるよ。
- **烽火（のろし）台** ▶狼煙台ともいう。敵の攻撃などを知らせるため、物を燃やすことによって煙を上げて合図や連絡をするための施設。1時間に200キロの速さで伝えられたスーパーアイテム!
- **曲輪（くるわ）** ▶郭ともいう。土塁や石垣、堀などで区画された場所。曲輪が多いほど防御力が上がるよ!
- **堀** ▶敵の侵入を防ぐために城や館の周りに掘られた溝。水を入れた水堀と溝だけの空堀がある。水が入ると防御力アップ!
- **堀切（ほりきり）** ▶山城や烽火台のある尾根を分断して敵の侵入を防御する堀。山城必須アイテム!
- **土塁（どるい）** ▶敵の侵入を防御するために城や居館に巡らされた土盛り。守りやすく攻めにくいアイテム。
- **石垣（いしがき）** ▶石積ともいう。主に城を区画する際に石を積み上げて敵の侵入を防ぐための城壁。時代により石の積み方が異なるよ!
- **大手（おおて）** ▶城の正門があるところ。殿様の入城はここから!
- **虎口（こぐち）** ▶小口ともいう。城の出入口。敵の侵入を防ぐために狭くなっている。守りやすくなっているのが特徴。
- **馬出（うまだし）** ▶出入口の前に堀や土塁・柵などを配置した虎口の一つ。敵が直進して突入できなくするアイテム!
- **櫓（やぐら）** ▶敵の監視や迎撃を目的とする施設。防御力アップの必須アイテム!

編集・発行　山梨県埋蔵文化財センター　〒400-1508 山梨県甲府市下曽根町923　TEL.055-266-3016
協　　力　甲府市教育委員会・韮崎市教育委員会・北杜市教育委員会・甲斐市教育委員会
印　　刷　青柳印刷株式会社

※ウォーキングする際はマナーを守って見学してください。狩猟解禁期間は明るい服を着るなど注意してください。山間の土地を見学する際には、猿や鹿などの獣に注意してください。※無断で複製・掲載を禁じます。

武田の軍道　棒道を歩く（北杜市）

この地には武田氏が甲斐の国を統一する前に逸見氏などの大きな勢力がいた。ここは信濃へと向かう重要なルートで、武田信玄が軍用道路として整備したといわれ、棒道として伝わっている。

スタート 甲斐小泉駅 1.1km 15分

① **六所神社** 逸見光長の長男の基義が式典を行ったことからこの神社が建てられたとされる。

② **法性寺** 武田信玄が開基と伝えられる寺。川中島の戦いの戦勝祈願のために建立したという伝承がある。

甲信の国境の要 武川へむかう!（北杜市）

北杜市武川町周辺には武川衆山高氏と柳澤氏が、今でも彼らの痕跡が各地に残っている。戦国時代に「鬼美濃」と呼ばれ、武田氏家臣の馬場（教来石）信春も武川衆の出自である。

甲斐武田氏　発展の地（韮崎市）

韮崎市の釜無川西側は武田信義が拠点を構えた地域であり、館跡や要害の白山城跡をはじめ、願成寺や武田八幡宮など多くの甲斐武田氏ゆかりの文化財が集中している。また、その南には武田氏の譜代家老（両職）の甘利氏が拠点を張っていた甘利荘がある。

⑰ **願成寺** 武田信玄の祖先である武田信義の菩提寺で、信義の墓と伝わる五輪塔（市指定文化財）がある。また、木造阿弥陀如来及び両脇侍像は、信義が寺に寄付したと伝わり、国の重要文化財に指定されている。

武田氏最後の拠点（韮崎市）

七里岩の先端に武田氏再起をかけた武田勝頼が新府城を築城した。しかし、再起はかなわず、武田氏滅亡後は天正壬午の乱で徳川氏の城として、北の能見城と共に対北条氏の城として使われた。この地は、武田氏から徳川氏へと移る激動の舞台であった。

スタート 穴山駅 1.3km 20分

㊱ **能見城跡** 新府城の防塁として使用された城。山の中には切などが見られる。穴山駅の南側に壬午の乱では北東に堂坂の砦と共に、徳川氏が対北条氏の最前線用の城として使用した。

「治水ノ難波」と「甲山の猛虎」ゆかりの地（甲斐市）

甲斐市の竜王は山梨市差出、笛吹市の近津と一緒に「治水ノ難場」と言われ、河川の氾濫が激しい地域であったため、信玄の時代から治水が行われるようになったとされている。また、武田氏家臣で「甲山の猛虎」と呼ばれた飯富虎昌や、徳川家康をも震え上がらせた飯富（山県）昌景兄弟の屋敷があったと伝えられる。

スタート 甲斐市役所 290m 3分

時を超えた二つの城下町（甲府市）

現在の甲府駅周辺につながる甲斐国府中（甲府）の町並みは、中世では武田氏館跡を中心に広がっていた。その後、甲府城が築かれ江戸時代になると、町の中心は南へと移り、現在の甲府市中心街へとつながっていく。甲府は、中世と近世の二つの時代の城下町を堪能できる特徴的な場所である。

⑭ 武田竜芳供養塔（聖道墓）
⑯ 和田の城山跡
⑰ 法泉寺の烽火台跡
⑱ 湯村山城跡
⑲ 松元寺
⑳ 関屋
㉑ 法泉寺
㉒ 万寿森古墳
㉓ 古八幡神社
㉔ 甲斐惣社八幡宮
㉕ 武田氏館跡
㉖ 躑躅ヶ崎亭跡
㉗ 円光院
㉘ 武田信玄火葬塚
㉙ 河尻塚

武田竜芳供養塔（聖道墓）

山梨県の中世から近世

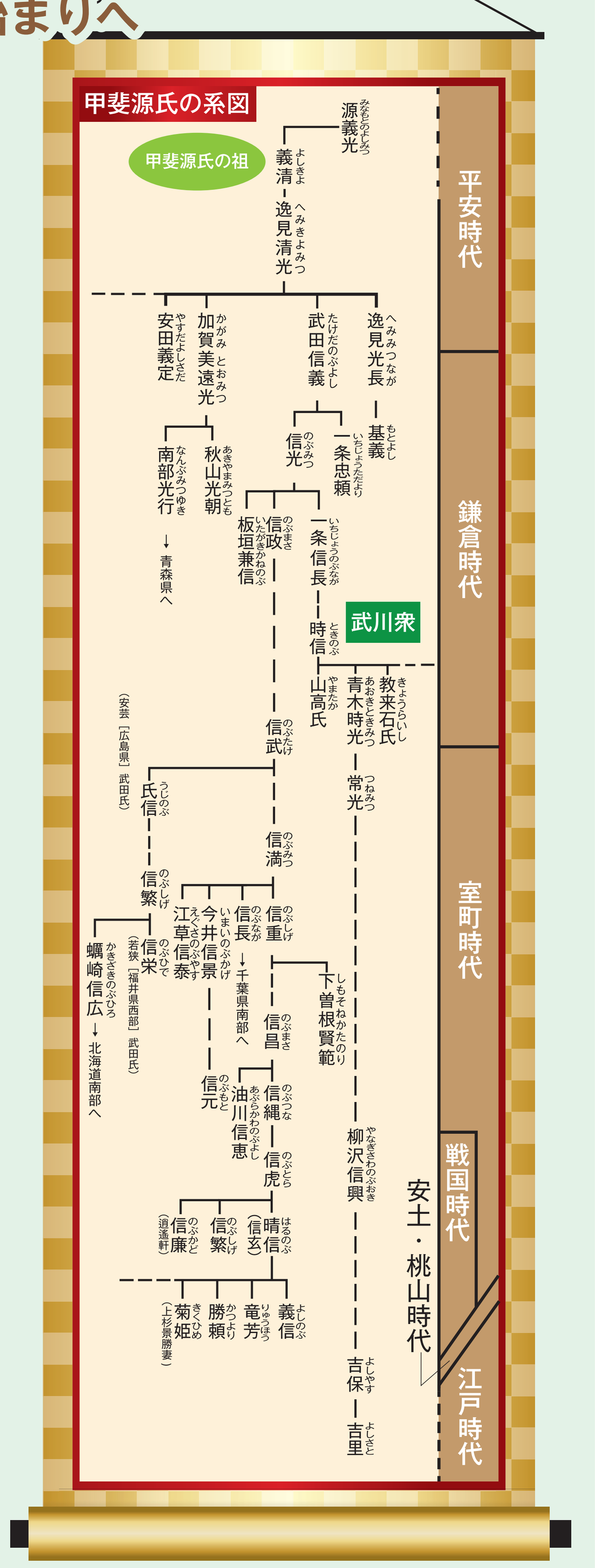
甲斐源氏の始まりから甲府の始まりへ

平安時代後半から鎌倉時代
〔約1100年前から約700年前〕

甲斐源氏は源義光の息子である義清を始まりとして、甲斐国（山梨県）で勢力を張った武士団です。義光は甲斐守に任じられ、義清の代になると、本格的に甲斐市川荘（市川三郷町）に拠点を置きました。逸見清光、加賀美遠光、安田義定など義清の子どもたちは、各地に拠点を展開し、その中の一人、逸見清光は八ヶ岳南麓を中心に活動します。また信義は武田氏を名のり、韮崎の地に拠点を展開し、武田信玄に代表される甲斐武田氏に繋がっていきます。

室町時代から戦国時代
〔約700年前から約450年前〕

室町時代の中頃、信満の代に上杉禅秀の乱に加担して甲斐国の守護であった武田氏が一時期衰退してしまいます。その間に八ヶ岳南麓の逸見氏などが力を持ち、武田氏と対立するようになります。逸見氏との対立は武田信虎が甲斐国を統一するまで続くようになります。甲斐国を統一した信虎は川田 150（甲府市川田町）にあった拠点を躑躅ヶ崎 125（甲府市古府中）の地へ移し、信濃国（長野県）の諏訪氏や駿河国（静岡県）の今川氏などの他国の勢力と争うようになりました。息子の晴信（信玄）の代になると信濃国への積極的な侵攻を行うと同時に、領国の内政に力を入れました。信玄の跡を継いだ勝頼は新府城 67（韮崎市中田町）に拠点を移すなど領国維持に努めますが、織田信長による侵攻を受け、甲斐武田氏は滅ぼされました。

安土・桃山時代から江戸時代
〔約450年前から約150年前〕

武田氏滅亡後、数ヶ月後に織田信長も倒れ、甲斐国には領主がいない状態となります。そこに隣国の徳川氏と北条氏が甲斐国の領土を得ようと互いに争い、天正壬午の乱が起こりました。その結果、徳川氏が甲斐国を支配することになり、家臣の平岩親吉により、甲府城の建設が始まります。その後、豊臣氏の勢力下となり、浅野氏の時代に甲府城が完成します。甲府には徳川氏直系が入りますが、綱重の子綱豊（後の6代将軍家宣）が藩主となった後、交代して、宝永元（1704）年に5代将軍徳川綱吉の側用人であった柳沢吉保と、その子の吉里が甲府藩主になると、城下町の整備や堰の開削などを行い、甲府の発展に貢献しました。その後、幕府の直轄となり、町方は甲府勤番支配へ、在方は代官支配となりました。